

We Secure the Future

思いをかなえる 技術で見つめる 確かな未来



グローリー株式会社

〒670-8567 兵庫県姫路市下手野1-3-1
TEL(079)297-3131(代表) FAX(079)294-6233
www.glory.co.jp

本報告書に関するお問い合わせ
総務本部 広報部 VI・CSRグループ
TEL(079)294-6317 FAX(079)299-6292

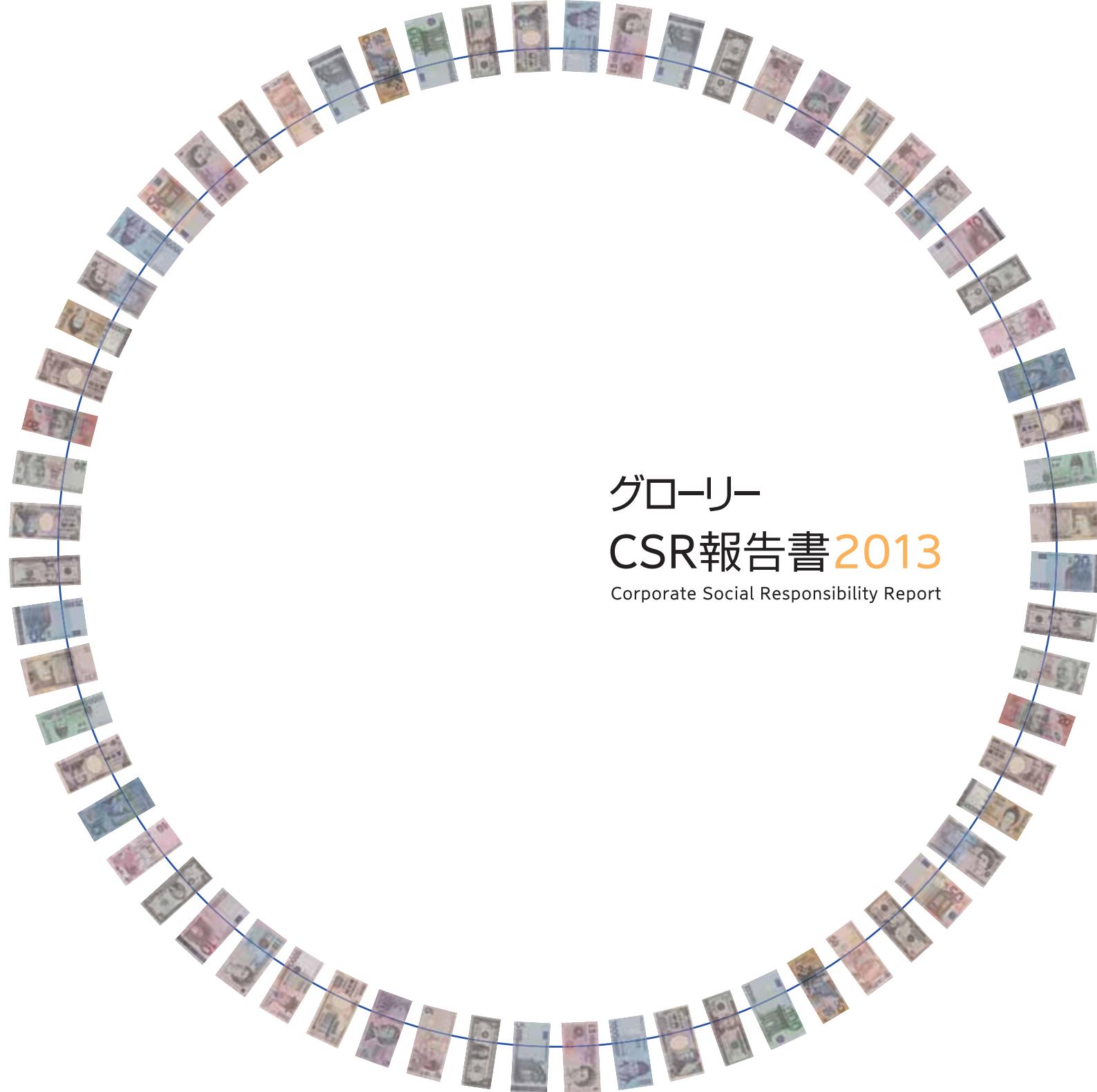
グローリー

CSR報告書2013

Corporate Social Responsibility Report



この報告書は、FSC®認証紙と植物油インキを使用し、水なし印刷を採用しています。



■企業理念

私たちは「求める心とみんなの力」を結集し、 セキュア(安心・確実)な社会の発展に貢献します

企業理念とはグローリーの企業としての目的・存在意義を表すものです。

「求める心」には「顧客、社会のニーズに不屈の精神で挑戦し、不可能を可能にしていく」という思いが込められています。

そして、「求める心」を共有した「みんなの力」が結束してはじめて偉大な仕事ができるという、

いつの時代も変わることのないグローリーの原点を表しています。

この原点を忘れずに、これからグローリーは安心で確かな社会づくりに貢献していきます。

■経営理念

- ・絶えざる開発の心で、お客様から信頼される製品とサービスを提供します
- ・個性の尊重とチームワークにより、活力ある企業グループをつくります
- ・良き企業市民として行動し、社会との共存・共生に努めます

経営理念とはグローリーがめざす経営のあり方、経営姿勢、すなわち企業活動の基本となる考え方のことです。

3つの経営理念は、上から順にお客様と事業活動に対する姿勢、社員に対する姿勢、社会に対する姿勢を表しています。

編集方針

本報告書は、グローリー株式会社及び一部グループ会社のCSR(企業の社会的責任)について報告するものです。CSR報告書2013では、“企業理念の実現そのものが当社のCSR”であることを改めて認識し、事業を通じたCSRへの取り組みを紹介しています。

報告対象組織

グローリー株式会社の取り組みを記載しています。グローリーグループや特定の法人に限定される事項を報告する際には、法人名を明記しています。また、環境活動報告については、グローリー株式会社及びグループ会社のISO14001認証取得事業所を対象としています。

報告対象期間

2012年4月～2013年3月

(2013年4月以降の報告も一部に含んでいます。)

発行日

2013年8月

参考ガイドライン

GRI(Global Reporting Initiative)

「Sustainability Reporting Guideline G3.1」

目次

トップメッセージ 3

特集1 グローリーのCSR 5



特集2 次世代モノづくりの実現 7



1 お客様への責任 9

2 株主・投資家への責任 11

3 取引先への責任 12

4 コミュニティへの責任 13

5 社員への責任 17

6 環境への責任 19

会社概要 22



企業理念の実現に向け、 社員が一丸となって CSR活動に取り組みます。

グローリーのすべての活動は、未来の社会や環境をより良くすることにつながっていかなければならないと考えております。その考え方の根幹となるものは、1918年の創業以来貫いてきた企業理念です。

当社を取り巻く環境は常に変化してきましたが、いつの時代も変わることなく、お客様、社会のニーズに不屈の精神で挑戦し、不可能を可能にしていく、という思いを持って、メカトロ技術、認識・識別技術を培い、事業活動に取り組んでまいりました。通貨処理機という公共性の高い製品やサービスを通して、お客様の効率化、厳正化ニーズに応え、安心で確かな社会の発展に貢献していくこと、すなわち企業理念を実現していくことが、当社のCSR(社会的責任)であると考えております。

当社は、2018年に創業100周年を迎えます。この大きな節目の年に向けて新たな目標を見据え、次の100年へスタートするために2012年に『長期ビジョン2018』を策定し、基本方針の一つとして「CSR活動を通じて、社会とともに継続的な企業成長を図る」を掲げました。CSRをビジョンとして掲げ、CSR活動をより一層推進することで、当社は、さまざまなステークホルダーの皆様と、より良好な関係を築いていきたいと考えております。

2012年7月、当社は、通貨処理機の製造・販売における世界的な有力企業の英国Talaris Topco Limitedを買収いたしました。グループの社員数は9,000人を超える、国籍や言語、文化も多様化するなか、社会の公器としての当社の役割を社員一人ひとりがより一層理解できるように、グローリーの考えるCSRをグループ全社員に浸透させることに注力しております。本年4月には、CSR経営を推進していくために、経営層から構成される「CSR委員会」とCSRの推進部門を設置いたしました。委員会では、当社のあるべき姿や活動の方向性を検討し、推進部門を通して全社に活動を展開してまいります。

当社が考えるCSRとは特別なことではなく、社員一人ひとりがその役割を通して、セキュア(安心・確実)な社会の発展に貢献することです。当社は、今後もステークホルダーの皆様の信頼に応える企業として、継続的な成長を図ってまいります。

2013年8月

グローリー株式会社 代表取締役社長

尾上宏和

企業理念の実現に向けて

CSR活動をより一層推進していくため、 企業理念体系を見直しました。

グローリーグループのCSRは、企業理念を実現していくことです。すなわち、製品やサービスを提供するという事業活動をはじめとしたさまざまな活動を通して、お客様、社員、株主・投資家、取引先、コミュニティなどのステークホルダーの皆様との信頼関係を構築し、安心で確かな社会の発展に貢献していくことと考えています。

グローリーグループは、企業理念を実現するためには、価値観と行動のよりどころをグループ全社員で共有することが不可欠と考え、企業行動指針や社員行動指針の浸透を図ってきました。しかし、近年のグループを取り巻く環境の変化やグローバル化により社員の国籍や文化が多様化するなかで、グループの一体感をさらに高め、CSR活動をより一層浸透させるため、このたび、企業理念体系の見直しを行いました。



CSR活動の推進に向けた取り組み

グローリーグループは、CSR活動の推進にあたり企業理念のさらなる浸透に取り組んでいます。まず、企業理念体系の見直しに合わせて、企業理念や経営理念、企業行動指針などを掲載したハンドブック「私たちの指針」を更新し、全社員に配布しました。これに加え、「企業理念の実現に向けて～グローリーグループが考えるCSR～」と題した映像ツールをグループ全社員が視聴し、CSRに対してさらなる理解を深めました。

グループ全社員が企業理念の実現に向けた意識を共有するため、ハンドブック及び映像ツールは8カ国語に対応し、グループ共通の価値観の醸成に努めました。



ハンドブック
「私たちの指針」



映像ツール
「企業理念の実現に向けて～グローリーグループが考えるCSR～」

企業行動指針の改定

2006年に定めた、企業としての取り組み姿勢を示した『企業行動指針』では、9つの分野をグローリーグループが大切にする価値基準として定めていました。このたびの改定では、これに「事業継続・収益確保・利益還元」と「リスクマネジメント」を新たに追加し、11分野としました。改定に際しては、CSRの国際的なガイドラインであるISO26000などを参考にし、グループ全体で共有できる指針としました。

●事業継続・収益確保・利益還元

理念に基づく事業を継続的に発展させることにより安定収益を確保し、持続可能な社会の構築に貢献します。

●品質・安全・顧客満足

お客様の信頼と満足を得る製品とサービスをタイムリーに提供します。

●情報管理

個人情報、会社情報等の情報を保護します。

●人間尊重・人材開発・労働安全

社員の多様性、人格、個性を尊重し、安全でかつ、うるおい、働きがいのある職場環境の実現を目指します。

●率先垂範・周知徹底

経営者の強力なリーダーシップのもと、企業行動指針の社内、取引先への周知を図り、その実現を目指します。

●法令遵守・公正競争・反社会的勢力阻止

法令の遵守はもちろんのこと社会的倫理規範を尊重し、透明、公正な企業活動を行うと共に、反社会的勢力との関係は一切持ちません。

●情報開示・ステークホルダーとの対話と協働

ステークホルダー(利害関係人)に対する情報の適正な開示と、相互間の対話・協働に努めます。

●社会貢献

企業と社会の利益の調和と発展を図り、「良き企業市民」として積極的に社会貢献活動を行います。

●環境保護

私たちは地球にやさしい行動と環境に配慮した製品の提供に全員で取り組みます。

●国際協調

グローバルな視点に立ち、国際的に調和した企業活動に努めます。事業を行う国や地域の文化・慣習を尊重します。

●リスクマネジメント

事業運営上リスクの予防・回避と災害発生時の損失軽減に努めます。また、ステークホルダー(利害関係人)の安全確保に努めます。

社員行動規準の制定 (グローリースピリット)

グローリーグループは、1918年の創業以来伝承されてきた考え方・価値観・手法としての「グローリーらしさ」を社員一人ひとりが取るべき具体的な行動としてまとめ、『社員行動規準(グローリースピリット)』を2013年4月に制定しました。この規準は、日々の業務や社会生活において実践すべき模範となる行動を、ガイドラインとして示したものです。グループ全社員が規準の実践に努めることで、企業理念の実現を目指します。



次世代産業用ロボット 「NEXTAGE」を活用した、 自動組立ラインを構築

日本の製造業にとって、急激な円高などの影響による海外移転や、少子高齢化による将来の労働人口の減少に伴う産業の空洞化を防ぎ、「海外に負けない競争力のあるモノづくり」を実現することは、喫緊の課題です。

当社は、この課題の一つの解決策として、新しいモノづくりの可能性を模索し、川田工業株式会社が開発した次世代産業用ロボット「NEXTAGE」を活用した自動組立ラインを構築しました。まず、2010年11月に「NEXTAGE」を試行導入し、制御ソフト作成に着手ましたが、従来の産業用ロボットより複雑でした。そこで、川田工業株式会社から専任の技術者を派遣してもらうとともに、当社も専用のアタッチメントや部品供給装置を作りました。川田工業株式会社のロボット技術と、グローリーの生産技術という互いが培ってきた強みを持ち寄り、共同で試行錯誤を重ねた結果、「NEXTAGE」による自動組立ラインが実現しました。

“人間が行う作業をそのままロボットに置換する”という画期的な発想で、“人間とロボットが共存する”次世代の生産ラインを構築したことが評価され、当社は「第5回ロボット大賞」(経済産業省、一般社団法人日本機械工業連合会主催)において「次世代産業特別賞」を川田工業株式会社とともに受賞しました。



第5回ロボット大賞
「次世代産業特別賞」表彰状



表彰盾



NEXTAGEによる自動組立ライン



専用のアタッチメントを使用した両面テープの剥離紙はがし

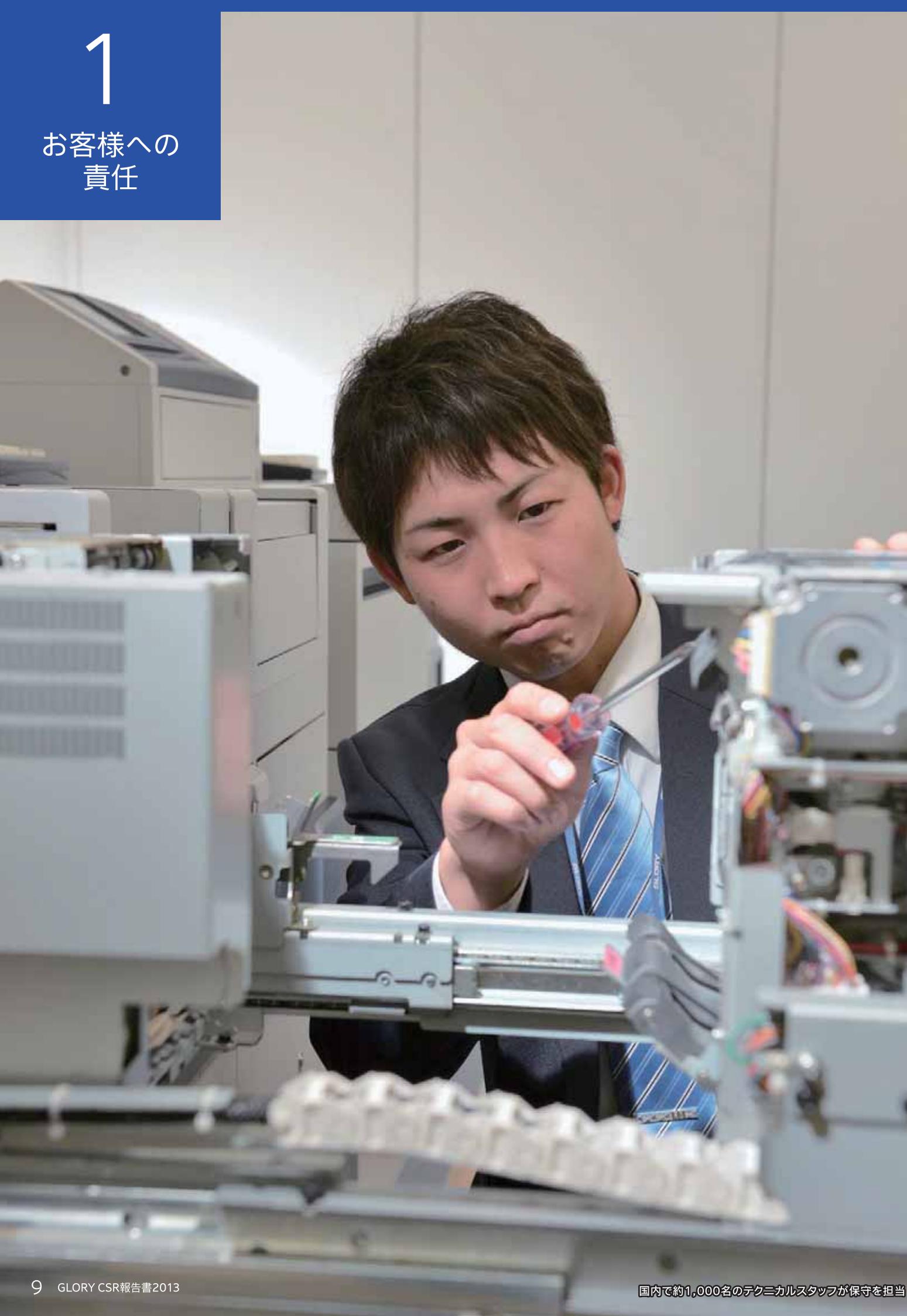


ゴムベルトなどの柔軟物の取扱いにも対応



社員とロボットが同じ組立ラインで作業

お客様への 責任



国内で約1,000名のテクニカルスタッフが保守を担当



テクニカルスタッフの保守対応力を競う「TSカップ」

お客様に安心して製品をご使用いただくため、 保守技術研修を充実

当社は、企画・開発から、生産、販売、保守までをすべてグループ内で一貫して手がけ、お客様の信頼に応える製品・サービスを提供しています。

保守においては、約1,000名のテクニカルスタッフが製品の修理・点検を行っており、お客様に迅速かつ確実なサービスを提供できるよう、日々保守技術の向上に取り組んでいます。具体的には、レベルに応じた集合研修やインターネットを活用した自己学習などを実施し、基礎知識と高度な応用技術を習得しています。研修後もフォローのためのブラッシュアップ研修を随時実施することで、技術力の維持と向上を図っています。

さらに、1993年からは、全国から選抜されたテクニカルスタッフが保守技術を競い合う社内大会「TSカップ」を開催しています。大会では製品を使用して技術力を競うほか、お客様訪問時の対応についても審査を行っており、総合的なサービスの向上に取り組んでいます。



「TSカップ」ではお客様訪問時の対応も審査

Voice みんなの力を結集させてテクニカルスタッフを
サポートすることで、迅速な復旧を目指します。

フィールド支援部は、修理や点検を担当するテクニカルスタッフをサポートする保守部門のスペシャリスト集団です。当社の製品は3,000機種、20,000型式にものぼるため、現場のテクニカルスタッフだけでは対応できないこともあります。その場合、フィールド支援部が、24時間365日体制で、テクニカルスタッフからの問い合わせに応え、アドバイスを行うほか、必要に応じて品質保証部門や開発部門に協力を仰ぎ、テクニカルスタッフへ指示することで、復旧を支援しています。お客様に「グローリーの製品・サービスは良い」と思っていただけるよう、迅速かつ確実なサポートを心がけています。



保守本部 市場品質統括部
フィールド支援部 グループマネージャー
池田 誠司

2

株主・投資家への
責任



第67回定時株主総会の様子

3

取引先への
責任



取引先を訪問し、製造工程の監査を実施

当社の事業やビジョンをご理解いただくための 適正な情報開示を充実

当社は、経営の透明性を高めるために、株主・投資家を始めとするステークホルダーの皆様に積極的な情報開示を行うことを重要な責務と考えています。

特に、株主や投資家の皆様との対話の機会を重視しています。例えば、株主総会においては招集通知の早期発送や事業説明のビジュアル化等を行うとともに、ショールームや工場の見学会を開催し、当社に対する理解を深めていただく機会を設けています。

また、機関投資家に対しては、決算説明会やコンファレンスコール(電話による説明会)などを開催するとともに、個別ミーティングの依頼も積極的に受け入れています。2012年度は特に、海外投資家向けIR活動を強化し、東京や香港でのコンファレンスに参加したほか、海外投資家を対象としたコンファレンスコールを初めて開催するとともに、英文資料の早期開示に取り組みました。

株主・投資家の皆様への情報提供についても、アニュアルレポートやグローリーレポート(株主向け報告書)の内容の拡充を始め、ウェブサイトの利便性を高めるなど、改善を図りました。

製品品質の向上に向けて 取引先とのパートナーシップを強化

当社は、公正かつ公平な取引を通して、取引先との信頼関係確立と相互の発展を目指しております。取引先は、安定した品質を確保するためのパートナーであり、協力体制の確立が不可欠だと考えています。そこで毎年、「取引先懇談会」を開催し、取引先との対話や交流を通して、パートナーシップの強化を図っております。また、「品質向上活動発表会」を開催し、当社の調達方針を説明するとともに、取引先に品質改善手法の事例を発表していただき、取引先同士の情報共有の場として活用いただいているます。

さらに、当社の部品受入部門による定期的な取引先訪問を実施しています。取引先の製造工程を現地監査し、改善のアドバイスを行っています。ほかにも、品質向上啓発ポスターの作製・配布といった施策を通して、さらなる品質の向上を目指します。



品質向上啓発ポスター



2012年7月、当社の「アニュアルレポート2011(英語版)」が、米国の独立評価機関MerComm, Inc.社が主催する世界最大規模のアニュアルレポートコンテスト「International ARC Awards」において、最高位である「金賞」を受賞しました。文章の読みやすさや経営者のメッセージをわかりやすく記述している点に加え、効果的なデザインなどが特に評価されました。



2013年3月、当社の株主・投資家向けウェブサイトが「ゴメスIRサイトランクイング」において「銅賞」を受賞しました。2012年度に続き、2年連続の受賞となりました。

Voice

良好な関係を築きながら、当社の品質に対する考え方を理解していただくことに努めています。

高い品質の製品を生み出すためには、まず取引先から品質の良い部品を提供していただく必要があります。そこで、取引先と「品質会議」を開催して情報共有を図るとともに、取引先を訪問し、継続的な工程監査を通して、さらなる品質向上を目指しています。企業文化や考え方の異なる取引先もあるなかで、当社の品質に対する考え方を理解していただくことを心がけています。また、取引先と積極的にコミュニケーションを取り、部品に関する知識を深められるようにしています。

今後も取引先との関係を強化し、相互の発展に向けて協働していきます。



生産本部 購買統括部 部品検査部
本多 信彦 寺田 直生



次世代を担う子どもたちの健全育成に貢献

当社は、子どもたちの心身ともに健全な育成を願い、公益財団法人グローリー小學生育成財団を通して、「科学体験教室」や「こども劇場」、「親子体験教室」等を開催しています。2012年8月に開催した「科学体験教室」では、子どもたちに科学の楽しさを体験していただくことを目的に、ホバークラフトを製作していただきました。当日は、社員約70名がボランティアとして参加し、子どもたちと一緒に製作を行いました。また、同伴した保護者の方には、ショールームをご案内し、当社について知っていただく機会を設けました。

春と秋には、親子でともに参加・体験し感動を分かち合ってもらうことを目的に、「親子体験教室」を開催しています。2012年11月に開催した秋教室では、熱気球の仕組みや原理を学習し、熱気球への搭乗体験も行いました。



Voice 地域教育の一環として、
より公益な事業展開を図っていきます。

2013年度春季の親子体験教室では、日常では体験できないイベントを通して、親子で感動を共有してほしいとの思いから、水陸両用バスとキッズプラザ大阪の体験ツアーを開催し、小学生とその保護者80名を招待しました。初めて乗る水陸両用バスに、驚きと興奮で目を輝かせる子どもたちの姿がとても印象的でした。

今後も、公益財団法人として、より地域に根ざした活動を展開し、子どもたちの健全育成に貢献していきます。



公益財団法人グローリー小學生育成財団
常務理事

長尾 政昭



世界各地で、 社会との共生を目指した活動を展開

グローリーグループは、日本国内のみならず海外のグループ会社においても、社会貢献活動を推進しています。

Glory Global Solutions(以下、GGS)では、社員が積極的にボランティア活動に参加するとともに、寄付を通してさまざまな活動に貢献しています。例えば、スペインでは、社員がアフリカ・サハラ砂漠の遊牧民や学校を訪問し、子どもたちに衣類や薬といった生活必需品を寄贈する活動に参加。この活動に賛同したGGSの社員からもペンやノートなどの文房具を募り、寄贈しました。これを受け取った子どもたちからは、喜びの声が聞かれました。

また、イギリスには、教会の児童団体をボランティアで指導している社員もいます。GGSではその活動を支援するため、団体が活動拠点としている部屋の改修のために寄付を募りました。

GLORY(PHILIPPINES),INC.(フィリピン)では、毎週月曜日に社員約80名が工場周辺の清掃を行っているほか、植樹イベントの開催や地域の児童福祉施設へのクリスマスプレゼント寄贈など、企業市民としての活動を充実させています。

光栄電子工業(蘇州)有限公司(中国)でも、2008年度から毎年、社員とその家族が地域の清掃を実施しています。2012年度は、約500名で工場の周辺道路や公園、近隣の老人ホームなどの清掃を行いました。

グローリーグループは、今後も世界各地で地域に根ざした社会貢献活動を展開し、社会との共生に努めます。





「グローリーウィメンズカレッジ」を通して ダイバーシティを推進

当社は、国際社会において競争力のある企業となるためには、多様な人材が活躍できる企業となることが不可欠と考えています。そこで、社内制度の拡充やさまざまな研修を通して、ダイバーシティ（人材の多様性）を推進し、社員一人ひとりが能力とキャリアを最大限活かすことができる職場づくりに取り組んでいます。

2012年度は、男女共同参画に対する社員の意識改革の一環として、「グローリーウィメンズカレッジ」を開講しました。部門から推薦された女性社員10名が、年4回の研修に参加し、各回のテーマに沿ってグループワークを行いました。受講者からは「目指したい将来像、身に付けるべき能力が見えてきた」「周りの人から『変わったね』と言われた」といった声が聞かれ、今後の活躍が期待されます。

また、当社は、2013年5月に「次世代育成支援対策推進法」に基づいた施策を推進している企業として厚生労働大臣から認定を受け、「次世代認定マーク（愛称：くるみん）」を取得しました。

今後も、多様な人材が活躍できる職場環境を目指し、制度の充実や積極的な人材登用を推進していきます。



「次世代認定マーク」を取得

Voice 研修を通じて「この人と一緒に仕事がしたい」と思われる
人間力を身に付けたいと感じました。

「グローリーウィメンズカレッジ」を受講したことは、貴重な経験でした。初めは「女性管理職を増やすための研修」と思っていましたが、男女関係なくベストタレントを発掘し、ダイバーシティを推進することが目的なのだと理解しました。

外部講師の方のポジティブな言葉を聞いたり、同年代の受講者とキャリア形成について真剣に考え発表したりするなかで、仕事力・人間力をもっと身に付けていきたいと強く感じました。これから「この人とと一緒に仕事がしたい」と思われるような魅力的な人間になれるよう、自分を磨いていきたいと思います。



生産本部 購買統括部 購買調達部
上田 裕子



部品の含有化学物質検査(左)、設計時の環境負荷を評価(右)



本社社屋の屋上に太陽光パネルを設置

基準を満たした環境配慮型製品を 「G-エコ製品」に認定

当社は、製品使用時のCO₂排出量を2030年に30%削減(2005年比)することを長期目標に掲げ、環境配慮型製品の開発に取り組んでいます。また、ライフサイクルアセスメント(LCA)を実施し、原材料の採取から廃棄に至るまでの全段階で環境影響を評価しています。新製品開発時には、「省エネルギー性」や「再利用、再資源化」など59項目からなる製品アセスメントを実施し、環境影響を従来製品と比較評価しています。このアセスメントにより、「消費電力量低減率が従来機比15%以上」「製品含有化学物質規制対応」等の基準を満たした製品を、「グリーン製品」として認定してきましたが、2013年4月からは、「G-エコ製品」に改称しました。今後、カタログなどに「G-エコ製品」のロゴマークを貼付し、お客様にも当社製品の環境性能をご理解いただきやすいうるようにします。2012年度は、開発した22機種のうち、17機種を「G-エコ製品」として認定しました。



「G-エコ製品」認定ロゴマーク

Voice

取引先にご協力いただきながら
製品含有化学物質の管理を徹底しています。

当社は、RoHS指令を始めとした製品含有化学物質規制に対応するため、化学物質の検査を徹底しています。定められた化学物質の含有基準値は、材料や部品によって異なるため、基準値に間違いないよう細心の注意を払って検査を行っています。また、測定を複数回行うなど、精度の向上に取り組んでいます。

化学物質の管理には、取引先のご協力が不可欠です。取引先に当社の調達方針をご理解いただき、含有化学物質の情報を提供していただけるよう丁寧な説明を心がけています。また、研修等を通じて知識を高め、検査品質のさらなる向上に努めます。

生産本部 埼玉工場 生産管理部
高橋 晃一 丸山 佳恵

本社の環境保全活動が、 兵庫県の「環境にやさしい事業者賞」を受賞

当社は、グループ会社を含む各拠点で、環境負荷低減に向けた取り組みを展開しています。2012年度は特に、節電活動に重点的に取り組み、本社社屋の屋上に太陽光パネルを設置して再生可能エネルギーを導入したほか、空調管理といった活動を徹底しました。

2013年6月には、本社が兵庫県の「環境にやさしい事業者賞」優秀賞を受賞しました。地域と連携した「グローリー夢咲きの森」における生物多様性保全活動や環境配慮型製品の開発に加え、環境省の「広域認定制度」を活用した使用済み製品のリサイクルなどが評価されました。

今後も、継続して環境保全活動に取り組み、省エネルギー活動や資源の有効活用などを展開していきます。



兵庫県「環境にやさしい事業者賞」授賞式

Voice

社員の環境に対する「意識」を
「行動」へと移していくます。

当社は、中期的な環境計画を立案し、環境保全活動を展開しています。計画は内容が多岐に渡るため、社員一人ひとりに「自身がやるべきこと」をはっきり認識してもらえるよう、わかりやすく社内展開することを心がけています。

近年の節電要請を受けて、社員の環境に対する意識はますます高まっていると感じています。その「意識」を「自主的な行動」に移せるようにバックアップすることが重要だと考えています。今後も、海外を含めたグループ一丸となって環境負荷低減に向けた取り組みを展開していきます。

品質・環境推進部 グループマネージャー
金井 崇成



生物多様性の保全を目的とした 「グローリー夢咲きの森」での取り組み

当社は、グローリー労働組合と協同で「グローリー夢咲きの森」(兵庫県姫路市)において、生物多様性保全を目的とした森林整備を行っています。2012年4月には、第2回森林整備活動を実施し、社員41名が参加しました。グループに分かれて、専門家の指示のもとヒノキの間伐やコナラなどの広葉樹20本の植樹を行いました。

また、10月には自然体験イベント「第2回子ども自然まなび隊」を開催し、社員とその家族54名が参加しました。今回は、子どもたちに森の動植物に目を向け、新たな発見をしてほしいとの思いから、虫めがねを使ったクイズラリーを行いました。

2013年度からは、関東地区の事業所でも森林整備活動を開始しました。4月には、東京本部や品川事業所、埼玉工場の社員が中心となって、NPO法人が主催する活動に参加しました。



Voice イベントを通じて 貴重な体験をすることができました。

私は「森林整備活動」と「子ども自然まなび隊」の両方に参加しました。森林整備活動は、ヒノキを間伐し、森に光が入ってくると、「地球や環境に良いことができた」と感動しました。

「子ども自然まなび隊」は家族と一緒に参加しました。子どもたちは、自分で作った虫めがねを使ってバッタの目や葉の細部を観察しては、これまで気づかなかった発見に目を輝かせていました。私も、子どもたちと楽しい思い出を作ることができ、日常では味わえない貴重な体験をすることができました。



開発本部 コアテクノロジー開発センター
鵜飼 和歲

会社概要

商 号／グローリー株式会社
GLORY LTD.
創 業／1918年(大正7年)3月
設 立／1944年(昭和19年)11月
資 本 金／12,892,947,600円

上場証券取引所／東京証券取引所 市場第一部
従 業 員 数／3,412名(グループ総数 9,003名)
(2013年3月31日現在)
事 業 内 容／通貨処理機、情報処理機、自動販売機、
カードシステム・自動サービス機器などの
開発・製造・販売・メンテナンス

セグメント

■金融市場



販売先：国内の金融機関、日本郵政、OEM先等
主要な製品及び商品：オープン出納システム、窓口用紙幣・硬貨入出金機、ATM用硬貨入出金ユニット、多能式紙幣両替機、自動精査現金バス、重要物管理機

■流通・交通市場



販売先：国内のスーパー・マーケット、百貨店、警備輸送会社、鉄道会社等
主要な製品及び商品：紙幣・硬貨レジつり銭機、小型入金機、売上金入金機、多能式紙幣両替機、小型現金管理機、店舗入出金機、コインロッカー

■遊技市場



販売先：国内の遊技場(パチンコホール等)
主要な製品及び商品：カードシステム、紙幣搬送システム、景品保管機、各台計数機、ホール会員管理システム、玉・メダル計数機

■海外市場



販売先：海外の金融機関、警備輸送会社、カジノ、OEM先等
主要な製品及び商品：ATM用紙幣・小切手入金ユニット、紙幣整理機、小型紙幣計数機、窓口用紙幣入出金機、紙幣・硬貨レジつり銭機、硬貨包装機

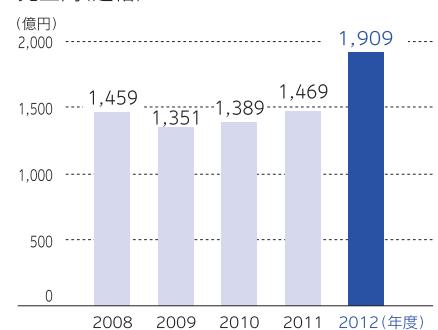
■その他



販売先：国内のたばこ販売店、たばこメーカー、病院、自治体、企業等
主要な製品及び商品：たばこ販売機、券売機、当選金払出手ユニット、診療費支払機、社員食堂システム、自書式投票用紙分類機

財務データ

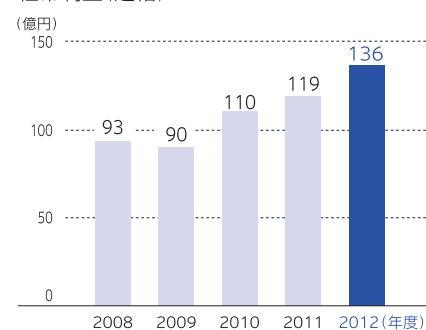
売上高(連結)



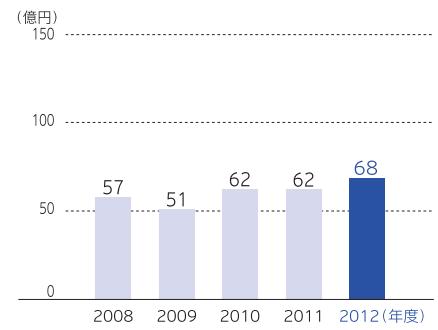
営業利益(連結)



経常利益(連結)



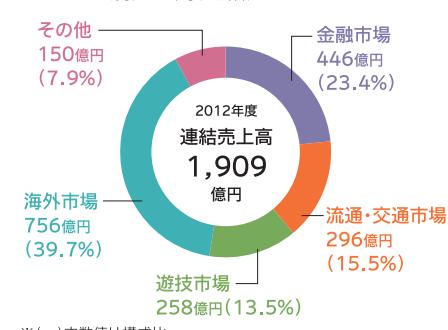
当期純利益(連結)



総資産(連結)



セグメント別売上高(連結)



※()内数値は構成比